

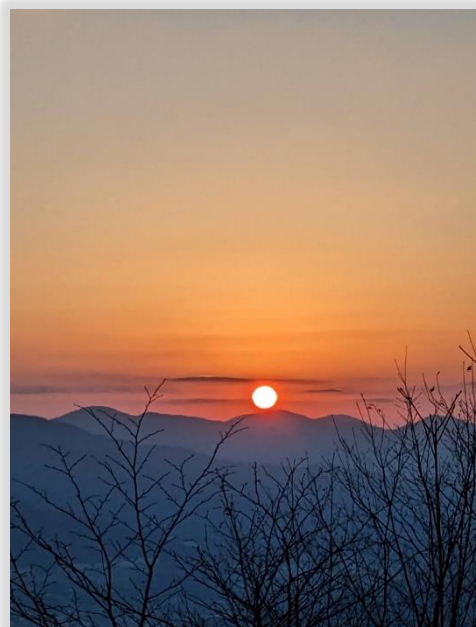
## 謹賀新年

旧年中は格別のご高配を賜り、心から厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルスの影響により、いろいろご心配、ご迷惑をおかけしておりますが、引き続き感染症対策を徹底し、患者の皆様が少しでも安心して治療や療養生活を送っていただけるよう務めて参ります。

本年も何卒よろしく願いいたします。

職員一同



## 各診療科から新年のご挨拶

### 循環器内科

内科診療部長  
主任部長  
不整脈センター長 村岡 裕司

謹んで新春をお祝い申し上げます。

平素より多くの患者様のご紹介をはじめ、格別なご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年、当院カテーテル検査室は、バイプレーン2基、DSA1基を更新し、従来より高画質かつ低線量下での診断、治療が可能となりました。本年もシングルプレーン1基の更新を予定しており、より良質な医療を提供できるようスタッフで協議しながら診療に取り組んでいます。

コロナ禍で様々な制約を余儀なくされる状況下ではありますが、昨年当科は100例以上の急性心筋梗塞の治療を行い、300例以上の高難度例を含む待機的冠動脈形成術を施行しました。また経カテーテル大動脈弁留置術は年30例を超え、順調に症例数が増加しています。不整脈分野においては、当院はバルーンアブレーションの年間施行症例数は中四国で最多で、昨年通算1,000例を超えました。

心不全の分野においては、心臓リハビリテーション専用のスペースを確保し、心肺運動負荷試験(CPX)やレジスタンス機器等を用いた専門的リハビリテーションを行う準備を進めております。また多職種による心不全の管理、教育をより充実した形で行い、連携パスなどを用いた地域の先生方との共有ができるよう、チームで協議を重ねております。

本年もみなさまのご期待にお応えできるよう、メンバー丸となって一層の努力を重ねてまいりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



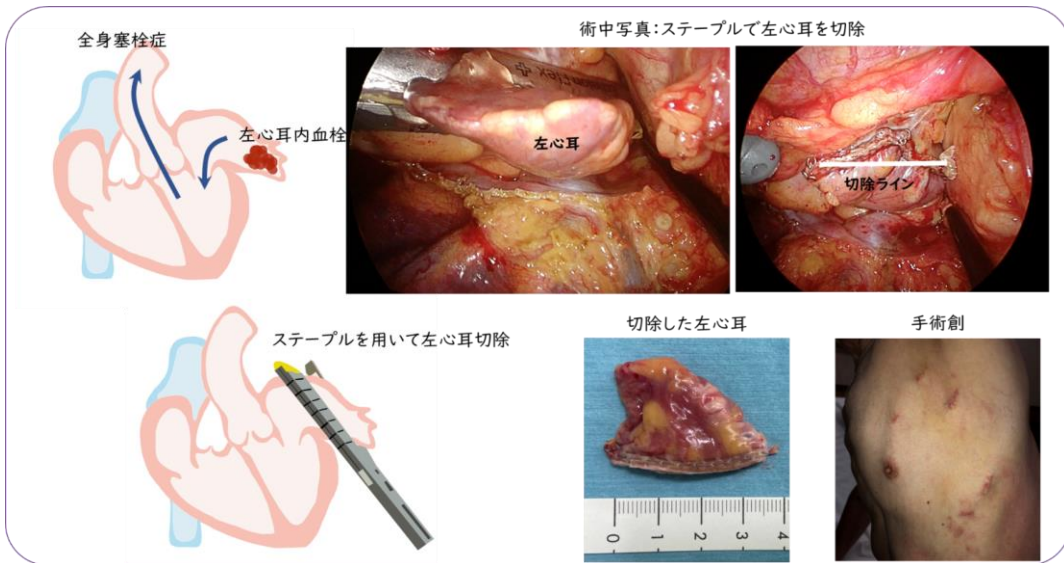
# 心臓血管外科

主任部長 山田 和紀

新年、明けましておめでとうございます。昨年も多大なご支援をいただきまして誠に有難うございました。今年もまた、コロナ禍の先が見通せない状態で明けてしまいました。学会や研究会は少しずつ現地開催で行われるようになってきてはいますが、まだまだ先生方に直接ご挨拶できる機会が少ない状況が続いております。一日も早く以前の日常が戻ってくれることを願って止みません。

当科では、心臓血管外科で扱う①弁膜疾患、②虚血性心疾患、③大血管疾患(胸部・腹部)、④先天性心疾患、⑤末梢血管疾患の全てに対応しております。

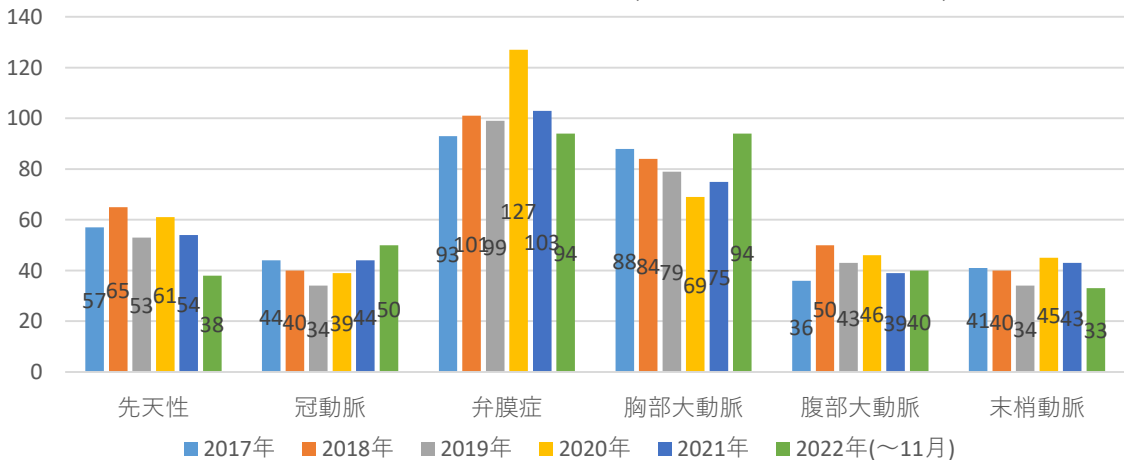
これらの他に、不整脈に関連した手術もあり、そのひとつとして胸腔鏡下左心耳切除術(ウルフ・オオツカ手術)があります。(概要図参照)血栓塞栓症の原因となる、心房細動に伴う左心耳内血栓を予防する目的の手術で、抗凝固療法をしていても血栓塞栓症を発症する、あるいは何らかの理由で抗凝固療法が難しい患者さんに対して行われる手術で、胸腔鏡下に低侵襲で行なうことができます。当科でも2021年末から取り組み始めて、徐々に経験を増やしてきています。



ウルフ・オオツカ手術のほかにも、弁膜症や冠動脈疾患、先天性心疾患についても低侵襲心臓手術(Minimal invasive cardiac surgery; MICS)を取り入れています。小切開による手術で、患者さんの肉体的・精神的負担を軽くし、より早期の退院と社会復帰を可能とします。今年も胸腔鏡システムを刷新する予定で、手術の質と安全性を確保しつつより積極的に取り組んでいきたいと考えています。

麻酔科や手術室との連携の下、複数の手術の同時進行が可能な体制が取れており、緊急手術などの紹介についても全てに対応できるよう努めてまいりますので、今年も昨年に増してご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最近6年間の手術数の推移 (2022年は11ヶ月分)



# 内分泌内科

医長 渡邊 浩

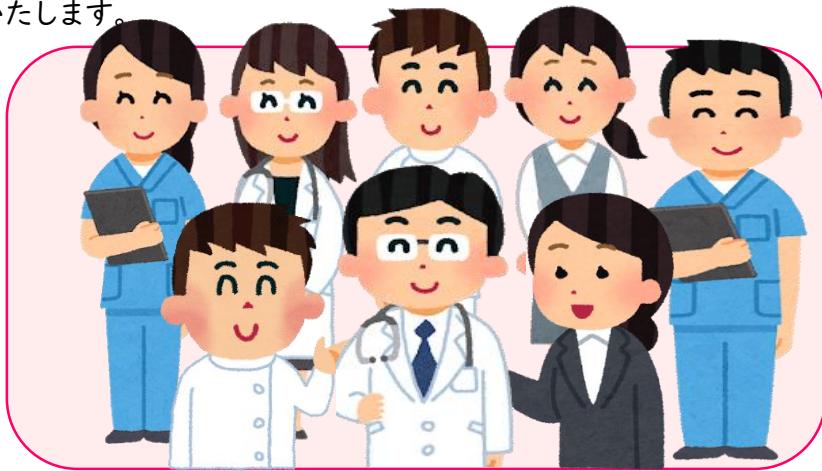
新年あけましておめでとうございます。

COVID-19感染拡大のため糖尿病教育入院を一時制限しておりましたが、昨年度より再開しました。COVID-19感染症も感染者の増減を繰り返し先が見えない状況において、感染拡大の影響で糖尿病患者の血糖コントロールの悪化も指摘されております。このような時期にこそ糖尿病患者に正しい知識を持ってもらい血糖コントロールを行うことによって、糖尿病患者をCOVID-19感染症から守ることが急務と考えております。

糖尿病教育入院後5年間の血糖コントロールに与える効果を検証した国内の研究によれば、全体(180例)のうち、多くは平均HbAc値が悪化することなく7%台を維持できていました。また、44%の患者は平均HbA1c 6.9%未満に維持できており、体重の増加率やインスリン増加量が少なく、合併症の進行率も低い等良好な経過をたどっています。なお、こうした長期的効果を維持できている患者の多くは、過去に糖尿病治療がなく、罹病期間が短い傾向にあったことも判明しています。

当院では、20名の日本糖尿病療養指導士が在籍しており、1週間の教育入院で理学療法士、看護師、検査技師、管理栄養士、薬剤師がそれぞれの専門性を生かし丁寧に説明します。また皮膚科、眼科、循環器内科、腎臓内科、整形外科との連携のもと糖尿病合併症の精査も行っております。教育入院中に、希望されれば、自己血糖測定、インスリン手技も指導しております。

初めて糖尿病と診断され糖尿病の知識がない、内服やインスリンで糖尿病治療を行っているにもかかわらず、食事療法や運動療法が実施できず生活習慣に乱れがあるため、血糖コントロールが不十分、合併症が進行してきている等でお困りでしたら当院での教育入院を勧めて頂ければ幸いです。よろしく願いいたします。



糖尿病教室スタッフチーム

# 小児科

医長 浦山 耕太郎

平素より各地域の先生方におかれましては、いつも患者様をご紹介頂き心より感謝申し上げます。

現在小児科医3名(浦山、森田、大崎)で、循環器疾患、新生児医療を中心とした診療を行っております。これまで同様に先天性心疾患の他、不整脈、心筋症に関しても、症例に応じて県外の施設と連携を取りながら、専門性の高い病態にも対応しております。

川崎病後遺症は、成人になられた患者さまも多く、成人科と連携しながら、MRIをはじめとした複数のモダリティを用いて、経時的な冠動脈病変の評価を行い、必要に応じて治療を行っています。現在、医療の進歩により、幼少期に先天性心疾患の外科治療を受けられた成人の患者さまが年々増加しています。当院でも先天性心疾患術後の患者さまが妊娠、出産される症例が増加しており、多職種で連携しながら、妊娠・分娩の管理や無事出産された後も育児支援までサポートできる体制を整えています。先天性心疾患に対する外科手術は、以前は根治術と言われていましたが、「根治した」と誤解されるため、今日は心内修復術と位置付けられています。

症状がなくても、加齢に伴う遺残症や後遺症に対して評価、治療が必要なことがあり、既往歴に先天性心疾患があり、通院を中断されている患者さまがおられましたら、一度ご紹介頂けましたら幸いです。今後とも何卒ご指導、ご鞭撻のほど宜しく願い申し上げます。

如何なる腎不全、臓器不全にも対応するという基本方針の下、①早期腎疾患および保存期腎不全患者の治療、②慢性腎不全患者の血液透析療法の導入とその合併症の治療、③慢性腎不全患者の腹膜透析療法の導入とその合併症の治療、④急性腎不全患者の薬物治療と急性血液浄化療法、⑤透析バスキュラーアクセス治療の5つの柱で治療を展開しております。

これらの治療を行うために、外科医、腎臓内科医が協同して診療に当たっております。

## 1. 早期腎疾患治療

尿異常や血液検査での血清クレチニン値の異常があれば、血液検査、尿検査に加えて、必要に応じて腎生検を行い、その結果と診断に基づいた治療を行います。

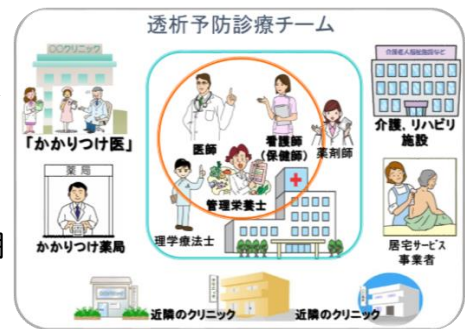
## 2. 保存期腎不全(慢性腎臓病:CKD)治療

慢性腎不全は、適切な治療によって末期腎不全にいたる時期を遅らせることができます。具体的には、原疾患の治療、薬物療法、栄養指導、生活指導を行います。

加えて、腎不全による症状に対する治療を行います。

また、腎臓病教室を開催し、患者教育に力を入れています。

特に透析予防診療チームの考え方の下、医療連携を積極的に活用しています。



## 3. 末期腎不全治療

当院では、血液透析と腹膜透析の両者を行っています。

療法選択外来を受けていただき、自分に最も合った治療を選択していただけます。

**血液透析療法:**血液透析は、週3回・1回3~5時間の透析を受けていただきます。医学的条件だけでなく、ライフスタイルや年齢、性格等も考慮し、夜間透析や在宅血液透析も行っております。

**腹膜透析療法:**腹膜透析では、透析液のバック交換を自宅や職場で行います。日中の交換をなくし、夜間就寝中に機械を使って透析液の交換を行うシステムもあり、透析療法と社会生活の両立が可能となります。

## 4. 急性腎障害(AKI)治療

薬物療法や点滴治療を行い、腎機能を回復させます。これらの治療で改善が見込めない場合や重篤な状態の場合には、集中治療室(ICU)で持続的血液浄化療法を行います。当院は、24時間治療可能な体制となっています。

## 5. 透析バスキュラーアクセス治療

血液透析では、バスキュラーアクセスが必要になります。当院では、バスキュラーアクセスの造設および合併症に対する手術、経皮的シャント血管拡張術(シャントPTA)を行っており、薬剤溶出バルーンやステントグラフト等の新規デバイスも積極的に導入しております。

## 6. 下肢末梢血管疾患治療

放射線科、血管外科、皮膚科と連携し、積極的に透析患者の下肢末梢血管疾患(下肢閉塞性動脈硬化症)の治療(経皮的四肢血管拡張術等)を行っています。

## 7. 連携医療

土谷総合病院では、上記のCKD、AKI治療に対する入院加療を主に行い、透析患者の安定後の外来維持透析療法は、中島土谷クリニックもしくは大町土谷クリニックで行っています。

また、長期療養が必要な方は阿品土谷病院で入院加療させていただきます。



# 外科

副院長  
外科診療部長 杉野 圭三

新年に向け新しいスタッフ紹介を兼ね、ご挨拶申し上げます。  
年間手術件数は約400件で甲状腺手術は約200件、上部および下部  
消化器疾患や胆石・ヘルニア・痔疾患等が約200件です。  
循環器疾患や腎機能低下症例の周術期管理に習熟し、消化器やヘル  
ニアなどの緊急手術にも対応しています。



## 副院長・外科診療部長：杉野 圭三

病院ホームページに徒然なる随想(唯我独尊の噂もある個人的見解!)を日々追加、  
掲載中です。診療や日常生活に疲れた時には暇つぶしに御一読ください。

甲状腺進行癌や巨大甲状腺腫瘍の手術を中心に、微小癌などの経過観察も  
行っています。反回神経などの重要臓器温存や再建を心がけ、根治性とQOLの両  
立を目標としています。



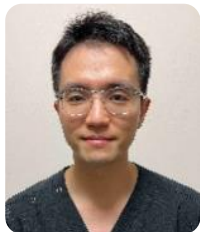
## 外科主任部長・診療補助部長：西原 雅浩

胃や大腸の消化器がんや胆石・ヘルニア・肛門疾患などを担当しております。また、  
進行再発消化器がんの外来薬物療法も行っています。さらに急患手術の対応にも  
可能な限りできるだけ対応いたしますので、遠慮なくご連絡ください。



## 副部長：川崎 由香里

初めて土谷総合病院に赴任したのが2010年でした。甲状腺癌の治療と言えば手  
術とアイソトープ治療と言う時代でしたが、近年は分子標的薬の登場により進行再  
発甲状腺癌の治療にも変化が見られています。当科では予後の改善が期待できる  
治療に積極的に取り組んでおります。お気軽にご相談ください。



## 医長：佐藤 幸毅

甲状腺疾患、消化器疾患、救急疾患に広く携わっています。外科医としてまだまだ駆  
け出しの身ですが、日々勉強させていただいています。当科訓であります、医学祖・  
ヒポクラテスの言葉にある『有能、洗練、速度、無痛、正確、そして機敏である』手術  
を目指して、日々精進して参りたいと思います。よろしく申し上げます。

# 産婦人科

部長 金子 朋子

あけましておめでとうございます。  
平素よりご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

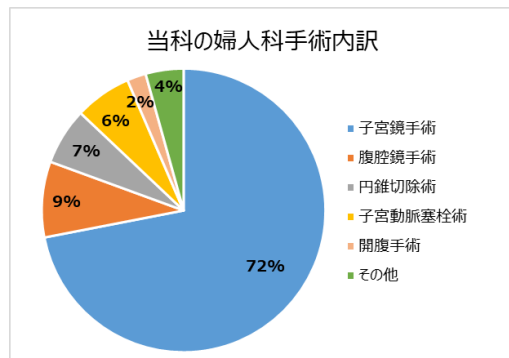
2022年暮れに本当に心配なニュースが報道されていました。2022年の出生数は前年比5.1%減  
の77万人前後の見通しであるというものです。当科での分娩数も昨年と比べ大幅に落ち込んでおり、  
分娩数の減少を肌で感じる今日この頃です。

母体搬送の件数は48件と昨年を上回っており、これについては皆様のおかげと心より感謝申し上げます。

婦人科疾患に関しては手術件数は139例でした。

4月から県立広島病院生殖医療科主任部長だった原 鐵晃  
先生が週2回当院に来られています。そのため子宮鏡下手術が大  
幅に増え、年間で100例になりました。

いつも患者様をご紹介いただき、本当にありがとうございます。  
今後とも産科婦人科問わず、少しでも早く対応できるよう努力  
してまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



# 消化器内科

医長 田中 友隆

新年明けましておめでとうございます。

平素より患者様をご紹介いただき、誠にありがとうございます。

2019年から猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症ですが、一旦沈静化が見られたようでしたが、再び増加傾向でまだまだ油断できない状況が続いております。当科では感染対策を十分に行いながら、日々の内視鏡検査を行っております。

さて、2022年8月の地域医療連携室だより(No.37)でもご報告しましたが、消化器内科は2022年9月から新型オリンパス内視鏡システム(EVIS X1)を2台導入しました。経鼻内視鏡(GIF-1200N)は4本あります。従来のscopeよりも細くなったため苦痛の少ない上部内視鏡検査を行うことが出来ており患者さんから好評です。

また来年度からは外来患者さんの大腸内視鏡検査前処置を快適に行うために個室スペースを院内に確保することが決まりました。現在準備中ですが、完成次第、地域医療連携室だよりでお知らせいたします。

今年も昨年以上にご支援ご指導をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

# 耳鼻咽喉科

医長 長 陽子

あけましておめでとうございます。

昨年4月より常勤体制となり、毎日診療を行っております。

耳鼻咽喉科は中耳炎、難聴、めまいなど耳疾患、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎、嗅覚障害など鼻疾患、急性扁桃炎、急性咽喉頭炎、急性喉頭蓋炎など咽喉頭疾患、頭頸部がんなど幅広い疾患に対応しており、当院でもさまざまな疾患、幅広い年齢の患者様の診察をしております。

現在1人体制のため対応できてない疾患もありますが、総合病院の耳鼻咽喉科として地域に貢献できればと頑張っております。

当院では他科で入院中の患者様で一番相談が多いのが嚥下評価です。高齢化社会を迎え嚥下評価が必要な患者様も増えてきており、この分野でも地域の医療に貢献できると考えております。

大学病院と連携して内視鏡下副鼻腔手術も行っております。

よろしくお願いいたします。

# 呼吸器内科

医長 餘家 浩樹

新年あけましておめでとうございます。

当科は呼吸器感染症、気管支喘息、COPD、肺癌、間質性肺炎、睡眠時無呼吸症候群など扱う疾患は非常に幅広く、病因も多岐にわたるため非常に知識や経験を要する領域です。当院では特に循環器系疾患や腎疾患を合併症として有する患者さんが多く、投薬のみでコントロールできるような軽症例から在宅酸素や在宅NPPVを必要とする症例まで多数の患者さんを診療させていただいております。呼吸器感染症例も外来では急性上気道炎などの軽症例から、入院では重症肺炎まで診断治療しております。総合病院における呼吸器内科として他科との連携をしながら地域の医療に貢献できますよう頑張っていきます。

当科では現在呼吸器内科医1人体制で診療を行っておりますので、気管支鏡、肺生検が必要な肺癌症例などについては、画像診断で肺癌が疑われる場合には、近隣の呼吸器内科・外科診療が可能な施設へ紹介をさせていただいております。昨年も多数の症例を受けていただき大変助かっております。

今後ともよろしくお願いいたします。

# 整形外科

部長 蜂須賀 裕己

明けましておめでとうございます。

いつも貴重な症例をご紹介下さる各病院、クリニックの先生方には厚く御礼申し上げます。

当科では昨年4月に膝・足関節外科を専門とする奥原医長が着任しました。より高度な下肢外傷、膝関節・足関節外科の対応が可能となっています。膝関節の関節鏡手術や靭帯再建術、人工膝関節全置換術のみならず、単顆型人工膝関節置換術、脛骨骨切り術など患者さんの体や社会生活に合わせた骨温存術も行っています。

伝統の手外科・肘関節外科では救急外傷や特殊な難治症例を紹介して頂く機会が増え、重ねて感謝致します。昨年は臨床のみならず学術面でも大きな成果がありました。国際手外科学会総会で2つの口演を行い、全国学会で招待講演やシンポジスト、パネルディスカッション演者を務めさせて頂きました。これからも世界レベルの手外科・微小外科手術を患者さんに提供し、地域医療に貢献するという目標を着実に実行して参る所存です。

上下肢の外傷、スポーツ障害、神経障害、関節リウマチ、先天性疾患、加齢性変性疾患、造形手術、難治性偽関節手術、機能再建手術に対応していきます。何卒ご紹介のほどよろしくお願い致します。

救急・緊急手術や、心臓・腎疾患既往のある整形外科傷、整形外科手術後のリハビリテーション入院の患者さんを積極的に受け入れられる様にシステム改善の努力を行っています。しかしながらスタッフの人数の問題などで、受け入れや受診が滞ることもあり、誠に御迷惑をおかけして申し訳ありません。

引き続き鋭意努力して参りますので、ご相談だけでも頂戴したく存じます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



写真左より 蜂須賀医師、木森医師、奥原医師

# 皮膚科

医長 渡邊 遥

新年明けましておめでとうございます。

当科は昨年4月に常勤医師が交代し、金曜日以外は1診体制に変更となりました。外来では引き続き湿疹皮膚炎群、蕁麻疹、皮膚腫瘍、外傷、皮膚感染症等幅広く診療を行っております。新型コロナ感染拡大に伴う新しい生活様式により、長時間マスクを着用する方が増えたことで、マスクによる接触皮膚炎やざ瘡の患者様の受診も増えてきている印象です。

当院では特に循環器疾患や腎疾患を合併する方が多数受診され、下肢虚血、難治性潰瘍の症例を数多く診察しております。木曜日は引き続き午前午後とも創傷ケアセンターとして専門外来を行っており、必要時SPP(皮膚組織還流圧)検査での血流評価や陰圧閉鎖療法等も併用しながら、他科とも連携を取りながら診療を行っていきます。

また、原発性局所多汗症に対するボトックス治療も行っています。多汗症に対する薬物療法の選択肢も増えてつつありますが、ボトックス注射は1回の施術で高い効果が期待でき、4-7カ月効果が持続します。多汗症でお困りの方がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介ください。

総合病院の皮膚科として、微力ながら地域医療に貢献できますよう、これからも努めて参ります。

本年もご支援ご指導の程、何卒よろしくお願い申し上げます。



皮膚科外来スタッフ

# 地域医療連携室からのお知らせ

## ◆訪問看護ステーションが土谷総合病院内へ開設されました

2022年11月1日より、「土谷訪問看護ステーション光南」は土谷総合病院(5階南棟)に事務所を移転し、名称を「**土谷訪問看護ステーション中島**」に変更しました。

### <特色>

土谷訪問看護ステーションは地域に根差した訪問看護を目指してきました。今回土谷総合病院の中に開設することで、病院との連携を行い病院から在宅、在宅から病院入院とスムーズな医療連携ができます。専門資格を有する経験豊富な職員が在籍しています。医師の指示による、在宅酸素療法・吸引・経管栄養・在宅点滴注射などの医療処置、栄養状態や服薬状況等の確認・アドバイス、在宅での生活リハビリテーションなど、在宅医療を支えています。

### <対象疾患>

脳神経疾患、呼吸器疾患、心疾患、整形疾患等、分類を問わず対応しています。

※現在、精神疾患を主病とする訪問は行っていません。

### <問い合わせ先>

TEL:082-544-2789

あかね会の  
施設が紹介  
されています



出典:南々社



〔訪問看護ステーション中島のスタッフの皆さん〕

## ◆地域包括ケア病棟の利用をお考えの方へ

こんな時、ご相談ください(どなたからの相談でもお聞きします。)

- 急性期治療(手術や内科療法など)を終えられた患者様で、もうしばらく経過観察が必要な方や在宅生活へ向けて、環境準備やリハビリが必要な方
- 家族が在宅介護できない期間の入院(冠婚葬祭や入院治療、介護疲れなど)  
これは『レスパイト入院』という言い方をしますが、ベッド状況によっては1~2週間程度でお願いしています。
- 施設への入居待機中の方(最長60日まで)

### 〔医療機関関係者の方へ〕

脳神経科医・精神科医はおりませんので、ご注意ください。

### 〔問い合わせ先〕

地域医療連携室 看護師 TEL:082-243-9191(代) FAX:082-243-9223